新病院の基本計画にかかる住民説明会

＊新病院イメージ図

済生会兵庫県病院・神戸市健康局地域医療課

1 再編統合に向けたこれまでの主な経緯

令和4年6月	三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本方針の策定（三田市）	三田市民病院（三田市）、神戸市、済生会兵庫県病院の3者による協議を踏まえ、北神・三田地域の急性期医療を確保するための基本的な方向性を示しました。
令和4年12月	三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本構想の策定（三田市）	令和4年6月に策定された「三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本方針」に基づき、北神・三田地域の急性期医療を確保するための役割分担、財政負担、整備候補地や新病院に関する基本的な事項などを示しました。
令和5年3月31日	三田市民病院と済生会兵庫県病院の再編統合に係る基本協定書の締結	新病院の整備を進めていくにあたり、済生会兵庫県病院、神戸市、三田市、三田市民病院の4者で、円滑な整備に向けての役割分担など必要な基本的事項に関する協定書を締結しました。
令和7年2月	新病院基本計画の策定（三田市）	令和4年12月に策定された三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本構想に基づき、新病院の担うべき診療機能・診療規模・診療体制等について具体的な計画を示しました。

2 基本計画の位置付け

基本方針 （R4.6）	北神・三田地域の急性期医療を確保するための基本的な方向性を示したもの
基本構想 （R4.12）	基本方針に基づき、北神・三田地域の急性期医療を確保するための役割分担、財政負担、整備候補地や新病院に関する基本的な事項などを示したもの
基本計画 （R7.2）	基本構想を踏まえ、新病院の詳細な医療機能（診療科数、外来・入院・救急・手術・検査等）、病床数、具体的な建設地、整備費、現病院の跡地活用等について基本的な計画を示したもの
基本設計・ 実施設計 （R7～R9年度）	基本計画に基づき、新病院の位置やデザイン、各部門のレイアウト、医療機器の設置や附属設備等について、工事に必要な設計を行う。

建設工事（R9年度～R12年度）

開　院（R12年度）

3 新病院の基本理念

- 神戸大学附属病院長に委員長を担っていただき、両病院の若手・中堅職員を中心とする基本理念委員会にて検討を行い、新病院の望ましい組織文化と職員に求められる行動規範として基本理念を定めました。
- 前文・標語・指針から構成し、その全体像を木（三田市民病院 正面玄関 欅（けやき）の木）に例えて整理を行いました。

1. 前文

三田市民病院と済生会兵庫県病院は、1990年代に人口が急増した三田・北神地域において、それぞれ「断らない救急」「経済的な困窮者にも医療を」を理念として掲げ、急性期基幹病院としての役割を担ってきました。

しかし、急速な人口減少や少子高齢化による医療需要等の大きな変化が見込まれるため、両病院は統合し、両地域の将来に亘る急性期医療の維持・充実を目指すこととしました。

両病院が守ってきた理念を継承し、使命を果たし続ける病院を目指すため、新病院の組織及び職員の行動規範として、基本理念をここに定めます。

2. 標語

私たちは、変わらない使命のために、
変わり続けます

3 新病院の基本理念

3.指針

地域の笑顔とぬくもりのために

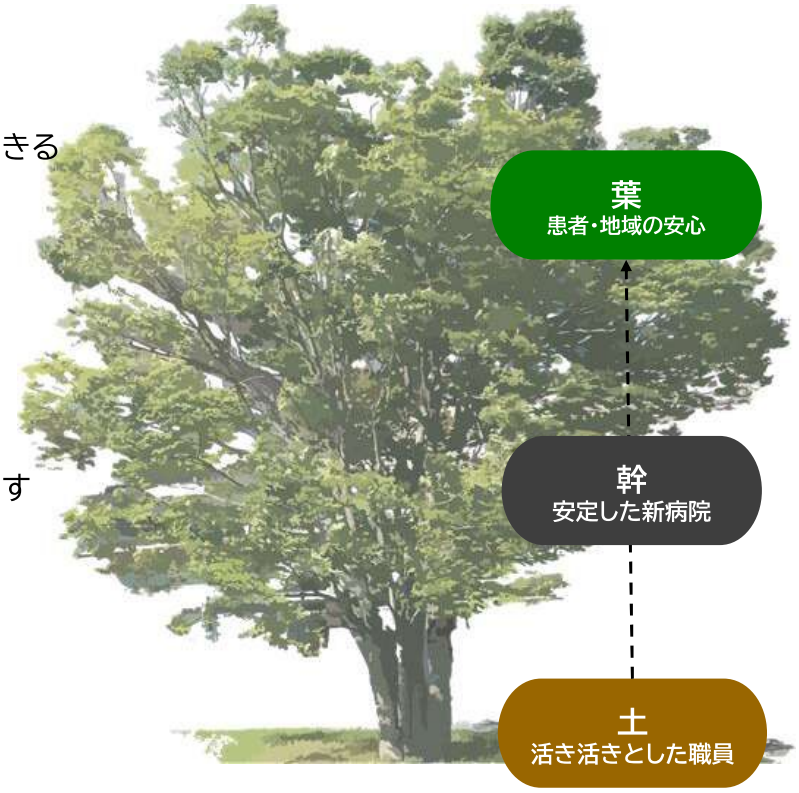
私たちは、すべてのいのちに寄り添い、
地域に笑顔と安心を届けます
私たちは、地域とともに高度な医療を提供できる
病院づくりを推進します

地域のために変わらぬ使命

私たちは、断らない救急を目指します
私たちは、確かな技術で充実した
急性期医療を提供します
私たちは、地域医療機関等と連携を
推進します
私たちは、広域的な自治体間連携を推進します
私たちは、持続可能な病院経営を行います

地域のために変わり続ける職員

私たちは、常に創意工夫し成長し続けます
私たちは、お互いを支え合い、尊重し、
世代を超えて働きやすい職場環境を
つくります



4 新病院の特徴

1 救急医療の充実

・ICU、HCU、NICUなどの集中治療室25床を有する425床の急性期病床を整備

・年間14,000件の救急患者の受け入れを想定

・24時間365日体制による「断らない救急」を目指す

2 小児・周産期医療の充実

・小児地域医療センターの指定を取得

・地域周産期母子医療センターの指定を取得

・24時間365日体制で、ハイリスク妊婦や低出生体重児、ハイリスク新生児への対応

3 診療機能の強化

・これまで北神・三田地域になかった心臓血管外科の新設

・脳神経外科の充実

・腫瘍・血液内科の新設等によるがん診療機能の強化

新病院が届ける6つの安心

4 感染症への対応強化

・全室、個室病床とすることで感染対策と患者プライバシーを確保

・感染症の流行規模に合わせたゾーニング

・快適な療養環境の提供

5 災害医療への対応

・災害拠点病院の施設基準に準ずる施設

・駐車場ゾーンを利用した臨時ヘリコプター発着エリアや自家発電を整備

・燃料、食料、医薬品などの備蓄確保

6 安定した医療提供体制

・診療機能の強化を図るとともに教育研修機能を充実

・医療従事者にとっても魅力的で働きやすい病院

5 病床数

整備する病床数は425床

病床構成

ICU（特定集中治療室）	6床	集中治療のために必要な診療体制とモニタリング用機器、生命維持装置など高度な診療機器を完備している病室
HCU（ハイケアユニット）	10床	ICU（特定集中治療室）と一般病棟の中間に位置し、診療科を問わず、術後や重症患者の管理を行う病室。
NICU（新生児集中治療室）	9床	新生児の治療に必要な保育器、人工呼吸器等を備え、24 時間体制で集中治療が必要な新生児のための治療室
一般病床	400床	

病床数の算出方法

想定入院患者数（2035年時点） 382.8人／日 ÷ 病床稼働率（他病院事例を参考） 90% ≒ 病床数 425床

①	両病院の医療機能を維持した場合の想定入院患者数（※）	362.1人
②	機能強化を図る疾患（がん領域）の想定入院患者数	13.3人
	機能強化を図る疾患（心臓血管外科領域）の想定入院患者数	7.4人

※現在の両病院の患者数に診療圏内における入院患者増減率を掛け合わせて推計

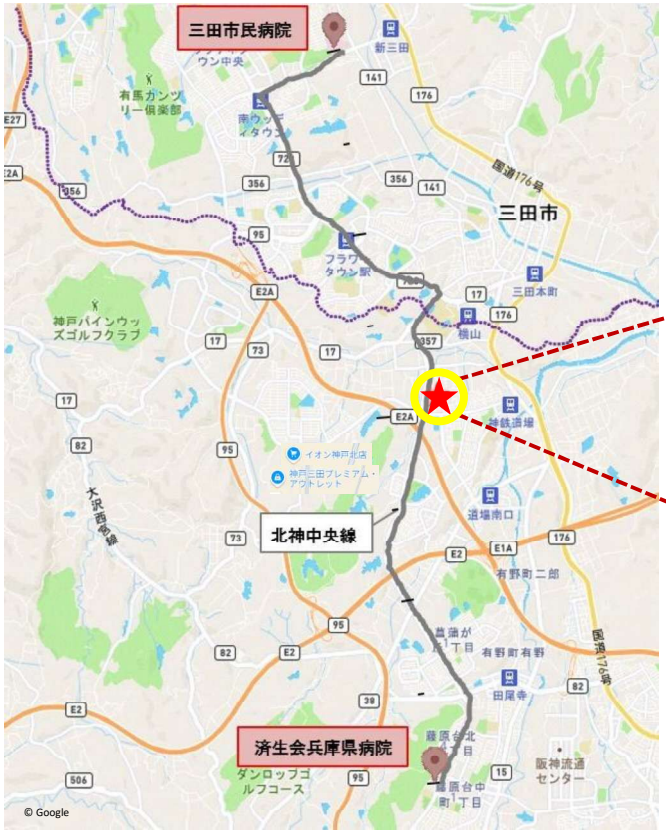
6 想定する診療科目

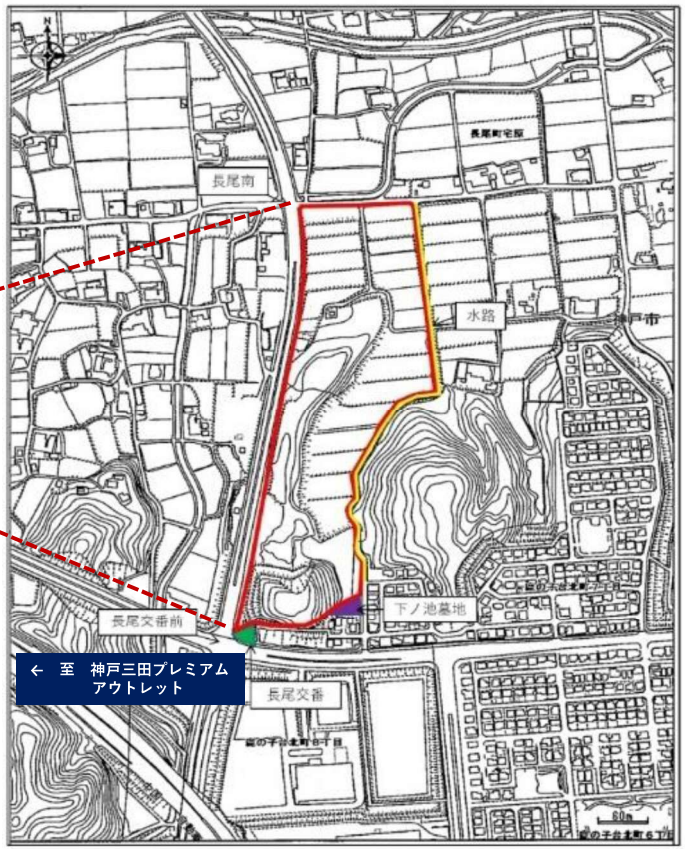
想定する診療科目は**35診療科**

	内科系診療科	外科系診療科	その他専門診療科
現在両病院で標ぼうし、今後も標ぼう【計23診療科】	内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、呼吸器内科、リウマチ科（膠原病リウマチ内科）【7診療科】	外科、消化器外科、呼吸器外科、形成外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、皮膚科、産婦人科、歯科口腔外科、耳鼻いんこう科【13診療科】	アレルギー科、リハビリテーション科、病理診断科【3診療科】
新規で標ぼう【計12診療科】	総合内科、腫瘍・血液内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、緩和ケア内科 【5診療科】	心臓血管外科、乳腺外科、小児外科 【3診療科】	救急科、放射線診断科、放射線治療科、精神科【4診療科】

（参考）現病院の診療科：三田市民病院　19診療科、済生会兵庫県病院　22診療科

7 整備計画





7 整備計画

1. 整備予定地・建築計画

整備予定エリア	神戸市北区長尾町宅原地内
敷地面積	約76,000㎡
都市計画等	市街化調整区域（建ぺい率60%/容積率100%） 一部農用地区域
建設計画概要（予定）	➢ 建築面積：10,000㎡程度 ➢ 延床面積：41,000㎡程度 ➢ 病床数：425床 ➢ 構造：鉄筋コンクリート造、免震構造 ➢ 駐車場：約1,300台 ➢ その他：駐輪場、院内保育所を想定

2. 施設計画

- 基本計画策定時点において、新病院は6階から8階建てを想定しています。
- 3階までの低階層部分に各部門を配置し、4階以上に病棟を配置します。
- 患者用駐車場台数は、新病院における想定患者数、病床規模を踏まえ、敷地内での駐車が可能となるよう必要数を確保します。
- 各部門の配置等については、今後詳細な設計を行う段階で精査していきます。

8 概算整備費

新病院の整備費については、近年の労務単価・物価上昇や、建設業における昨今の社会経済情勢を見据え、以下のとおり算定しました。

項目	内容	概算整備費
① 設計管理費	設計・工事監理	16億円
② 建設工事費等	建築工事、外構工事、附帯設備、造成工事	405億円
③ 医療機器等整備費	医療機器、情報システム、備品	92億円
④ その他	移転費、コンサル経費など	8億円
合 計		521億円

※利息（140億円）を含む総整備費は661億円となる。また、上記には、用地取得費を含んでいません。
※「③医療機器等整備費」の内訳は、医療機器整備費60億円・情報システム整備費28億円・備品費4億円となっています。
※新病院の整備費は、進捗に応じて見直す場合があります。

9 財政負担

1. 整備費の内訳

項目	合計	内訳			
		三田市		済生会	県補助金
		市税負担	交付税措置		
新病院整備費	521億円	198億円	142億円	162億円	19億円

※上表には利息、用地取得にかかる費用及び神戸市からの支援額は含みません。
※交付税措置及び県補助金については、国及び県の現行制度が継続された場合を想定しています。
※国による普通交付税措置は、施設整備費（うち建物は単価59万円/㎡まで）、医療機器整備費の40%を想定しています。

2. 整備費・運営費の考え方

整備費

三田市	神戸市	済生会
整備費の2/3 （約67%）を負担 整備費の約40% について普通交付税措置予定	・用地取得費を支援※ ・救急・周産期医療に係る病床分を対象に、神戸市民の入院患者割合を支援	**整備費の1/3** （約33%）を負担

支援

※用地取得費から病院事業債の元利償還金に対して三田市に措置される普通交付税相当額を控除した金額を三田市へ支援

運営費

三田市	済生会	神戸市
政策医療等（救急医療や周産期医療など）について負担	全ての運営費	救急・周産期医療に係る収支不足を対象に、神戸市民の入院患者割合を支援

負担　支援

10 新病院における収支シミュレーション

近年の労務単価・物価上昇や、建設業における昨今の社会経済情勢を踏まえ、新病院の想定収支について、以下のとおり算定しました。

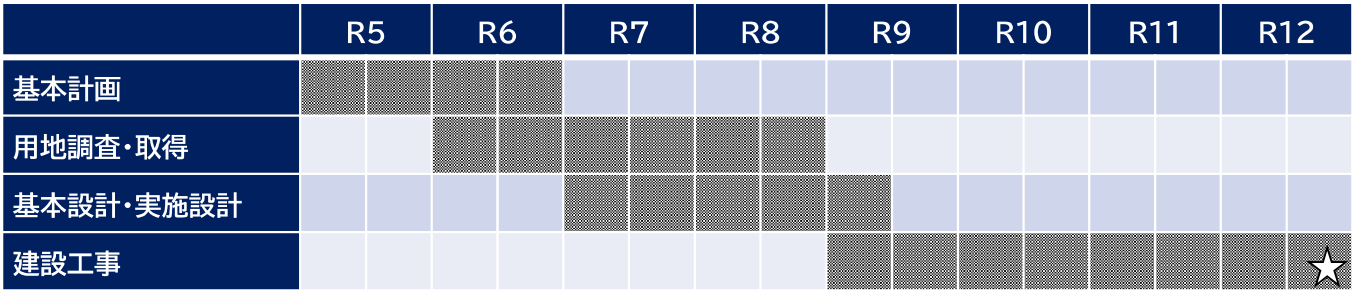
（単位：百万円）

項目	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22
収益（a）	14,531	15,306	16,091	16,305	16,544	16,544	16,544	16,544	16,544	16,544
医業収益	13,564	14,339	15,124	15,338	15,577	15,577	15,577	15,577	15,577	15,577
料金収入	13,246	14,003	14,770	14,979	15,212	15,212	15,212	15,212	15,212	15,212
その他	318	336	354	359	365	365	365	365	365	365
医業外収益	967	967	967	967	967	967	967	967	967	967
指定管理料	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550
その他	417	417	417	417	417	417	417	417	417	417
費用（b）	14,786	14,825	15,575	15,839	16,138	16,271	16,290	16,310	16,329	16,347
医業費用	14,027	14,066	14,816	15,080	15,379	15,512	15,531	15,551	15,570	15,588
人件費・診療材料費	9,043	9,130	9,219	9,243	9,270	9,270	9,270	9,270	9,270	9,270
その他	4,984	4,936	5,597	5,837	6,109	6,242	6,261	6,281	6,300	6,318
医業外費用	759	759	759	759	759	759	759	759	759	759
経常収支（a）-（b）	**-255**	**481**	**516**	**466**	**406**	**273**	**254**	**234**	**215**	**197**

※現時点で見込まれる整備費や現行制度に基づいた試算です。
※R12年度は年度途中の開院を予定しているため、上記シミュレーションに含みません。

11 整備スケジュール

令和12年度中の開院を目指す



※現時点で見込まれるスケジュールであり、設計段階においてさらに精査します。　　☆印＝開院

基本構想時との比較

- 設計業務（基本設計・実施設計）においては、基本計画策定時期の見直しによる着手時期の遅れや病院現場との綿密な調整を要することをふまえ、設計期間を約1年延長
- 建設工事においては、施工事業者などへの市場調査により、建設業の働き方改革や大阪・関西万博など大型事業の影響による人材不足といった状況を鑑み、工期を約1年延長

→新病院の開院時期を2年延期し、令和12年度中の開院を目指すこととしました。

12 新病院への交通アクセス

1. 基本方針

- 新病院が開院することによる、人の流れや交通環境の変化に配慮しながら、患者や家族等の利用者にとって望ましい交通アクセスを整備する。
- 交通アクセスの検討にあたっては、現在の病院までのアクセス状況を踏まえ、病院の移転により患者や家族等の利用者の利便性が大きく損なわれることがないよう、地域特性を考慮するものとする。

2. 公共交通について

① 公共交通ネットワークを最大限活用するため、交通事業者との連携等により、バス停の設置等による**公共交通サービスの向上**や**公共交通の利用促進**を図る。

② 公共交通の補完として、**シャトルバスの運行等**についても検討する。

3. 自動車交通について

① 新病院周辺の道路交通環境への影響を考慮しながら、必要な交差点や道路を整備する。

② 患者、家族等の車両と救急車の導線を考慮し、駐車場や乗降場所を整備する。

13 現病院の跡地活用

1. 現三田市民病院の跡地活用について

① **「現三田市民病院跡地活用基本方針」の策定**

民間サウンディング型市場調査を経て検討を進めた結果、回復期医療及び外来診療の提供を基本としつつ、引き続き市民が安心して医療を受けることのできる体制の構築につながる跡地活用の方向性を示すものとして**「現三田市民病院跡地活用基本方針」を令和6年7月に策定**しました。

今後は令和7年度後半に事業者を選定し、契約協議等を進め、新病院開院後に跡地における事業着手を予定しています。

② **跡地活用のコンセプト・導入を想定する機能**

跡地活用のコンセプトを以下のとおり設定し、このコンセプトの実現のため、回復期医療及び外来診療の提供を基本とする市民サービスを提供します。

【導入を想定する機能】
①回復期医療機関
②外来診療機能
③休日応急診療センター機能
④病児保育機能等
⑤子育て相談・交流機能
⑥在宅医療等
⑦介護施設
⑧子育て世代～シニア層まで幅広い市民に有益な機能
⑨周辺地域の魅力・価値向上につながる機能

2. 現済生会兵庫県病院の跡地活用について

現済生会兵庫県病院についても、何らかの医療機能を残すことを最優先に検討を進めています。
※ふじの里(特養)などは、現在の場所で継続予定です。

北神地域でのシャトルバスの運行方針

1. 経緯・現状

① 検討委員会(有識者会議)での報告

神戸市・三田市の共同で設置した「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」において、検討が必要な項目として、**「送迎バスなどの交通アクセスの利便性確保」**が示されている。

② 済生会兵庫県病院が運行するシャトルバスの利用状況

現在、済生会兵庫県病院では岡場駅からシャトルバスを運行しており、1日あたり約170名の方にご利用いただいている。

2. 方針

・ 現在の病院までのアクセス状況を踏まえ、引き続き、**岡場駅から無料シャトルバスの運行を実施**

・ 具体的な運行内容については、今後の民間路線バスの状況や利用者数の見込み等を踏まえたうえで決定

＜岡場駅～新病院の想定ルート＞

ご清聴いただきありがとうございました

〔 メ モ 〕